

# 安くて楽しくて気楽な託（宅）老所

北海道ぼけ老人を支える家族の会  
長 谷川 巖

「北海道ぼけ老人を支える家族の会」の長谷川です。私たち家族の会では、現在7つの市と6つの町の合計13ヶ所で託（宅）老事業を実施しております。家族の会は全道で50市町に支部がございますので、そのうちの13ヶ所ということで皆さんは少ないなと思われるかもしれませんが、私は会長として決して託（宅）老事業に慌てて踏み込むことのないよう焦らずに、その地域に最も合った事業を行なっていきたいと思っています。

例えば電話相談、命の相談電話ですね、これも大事だし、ふれあい訪問という一声運動、それから集いの会報の手配りとか大事な仕事がいっぱいあるので、あまり慌てないでやってくださいということを支部に申し上げています。

それはなぜかという、他の仕事と違って一旦始めたら、ボランティアの方がやめたり場所が急に使えなくなったからといって、明日からもう託（宅）老をやめます、という訳にはいかないからです。特にぼけの人の託（宅）老というのは、環境が変わることによって容態が非常に悪化する恐れがありますので、決して無理をしないで十分力を貯えてから始めてください、とっております。

その13ヶ所のなかで釧路市と清水町は、特定非営利活動団体NPO法人として認証を受けたところです。現在、石狩市の家族の会がNPO法人の申請をしております。ところ

が、せっかく市民活動、私たちのボランティア活動を助けようということで法律が施行になったのですが、問題があります。昨年、釧路市の家族の会が託（宅）老事業の実績を認められて、毎日新聞社から全国で3団体に贈られる介護賞を受けました。しかしNPO法人なのですが、100万円もらった賞金の手取りが90万しかなくて、ちゃんと10万円、1割引かれているわけです。私たちにとってはたとえ1万円でも貴重なお金ですから、賞をもらったときには、丸々もらえるようお願いしたいと思います。

どのくらいの託（宅）老利用者があるのかと聞きますと、年間で約6000人です。お年寄りはお亡くなりになる方もいますし、北海道は半年間雪に閉ざされますから数にずいぶん変動があります。ですからこの6000人というのは託（宅）老所の定員目一杯、年間フルに稼働したときの数を示していますので、やや多めではあります。

13ヶ所の託（宅）老所では、1ヶ所で月平均2、3回やっています。1回につき利用者は16人から17人で、合計しますと月に500人です。全道の毎日どこかで1ヶ所が事業をやっているということになっています。利用料金は1回につき300円から高いところで500円です。これは入浴の設備がなく、家族の会は入浴をしてあげることができませんので、ほとんどが昼食代ということになります。



します。1点目は、託(宅)老の利用者が増えているということです。昨年4月から介護保険制度が始まったときに、内心私たちは良かったと思いました。10年もやっていると会員さんも10歳年を取るわけですし、世話役の方も疲れ気味で腰痛もあります。特に移送介助、送り迎えというのは大変で、これは会員さんのボランティアでやっています。デイサービスが3時ぐらいに終わって、そこから車に乗せてお家に帰るのですが、会長さんは自宅に待っていて、参加したお年寄りを全員自宅に無事お届けしましたと世話人から連絡をもらってはじめて終るのです。ですから、送迎の運転手ぐらいはせめて自治体の費用で雇ってほしいと切に思います。

2点目に変わったことは、要介護認定者、介護保険サービスの対象者と介護保険の対象とならなかった方との託(宅)老住み分けができてきたということです。「痴呆の方は介護保険サービスの方に行ってください。設備も良

いし、プロの介護者がいますので。他方まだらぼけかぼけの軽い方はこちらに来て家族の会で楽しんでください」という感じで、なんとなく住み分けができてきています。私は「北海道ぼけ老人を支える家族の会」の会長ですから、ぼけの人の世話をするのが本来の努めなのですが、介護保険制度ができたためにぼけの方は介護保険制度の方に、ぼけていない方はどうぞこちらの方にという妙なことになっています。しかし介護予防も大切ですから、ぼけ防止で託(宅)老をやっていると考えれば、家族の会の仕事としてそれもいいかなと思ったりしています。

次に1番大切な課題についてお話しします。13の家族の会からアンケートを取って見ましたら、1番多かったのは、世話人がなんといっても足りないということです。特に力仕事のできる男性の会員です。介護保険は女性を介護から解放するために始めたのに、介護保険対象外の託(宅)老が女性に頼るようでは







養成されていく必要があるのか、ということについてお考えがあったらお願いいたします。

長谷川：介護保険制度が始まったのに、どうして多くの方がボランティアの託(宅)老の方に行くのかといいますと、安くて楽しくて気楽ですという3つのことが挙げられます。安くてというのは、先程お話ししたように介護保険の方は入浴付ですが1000円以上かかる、ボランティアの方では入浴はできないけれども最高でも1回500円ですむ、という料金の違いがあります。それから楽しくてというのは、歴史の古さというものがあるのですが、顔馴染みがありますので、どうしてもボランティアの方に行ってしまうという訳です。私たちは2つほど注意していることがあります。1つは昼寝を十分取っていただくこと、それから食事の時間を、お1人お1人の状態に合わせてゆっくり取っていただくということです。今一番時間のかかる方で、2時間食事をされている方がいますが、決して急がせません。そういうことも、多くの方が託(宅)老を利用される理由かもしれません。3つ目の気楽ですということについてお話しします。介護保険サービスはまず基本的にキャンセルができません。お年寄りには朝になってみないとその日の健康状態がわかりません。家族の会ですと、'調子が悪いのでしたらゆっくりおやすみなさい。'と言ってくれます。そうしたところに気楽さがあるのだと思います。また、ケアプランにも関係ないし、ケアマネージャーにも電話をする必要もないという手続き上の問題もあろうかと思われま

す。次に2番目の質問ですが、専門家の希望についてお話しします。1つ目としまして、病院

を定年された看護婦さんにぜひ託(宅)老に来ていただきたいですね。脈を取ったりいろいろな仕事がありますので、家に閉じこもっていないでぜひ手伝っていただきたいと思います。それから特に痴呆の方の介護は経験が大切ですので、そうした経験をお持ちの方が来てくださると喜ばしいです。専門の介護職ではないのですが、自衛隊を定年された方も大歓迎です。自衛隊の定年は53歳なのですが、元気がいいし規律、礼儀正しいので、こういう方が送迎の運転手をやっていただけたら、とても助かります。

#### 生活協同組合 北海道高齢協

〒070-0032 旭川市2条通14丁目右7号

0166-27-1416 Fax22-1498



宗谷 tel/fax 0162-24-4664

道北 tel0166-27-1416 fax 221498

釧根 tel0154-22-2359 fax 24-8132

美唄協同給食 tel/fax 01266-4-2428

おたる・後志 tel/fax 0134-21-6531

札幌・道央 tel 011-841-5762 fax 841-5760

札幌福祉 tel 011-669-8182 fax 669-8721

北広島福祉 tel/fax tel/fax 011-373-6819

道南「茜」 tel/fax 0138-56-0756